和字絵入

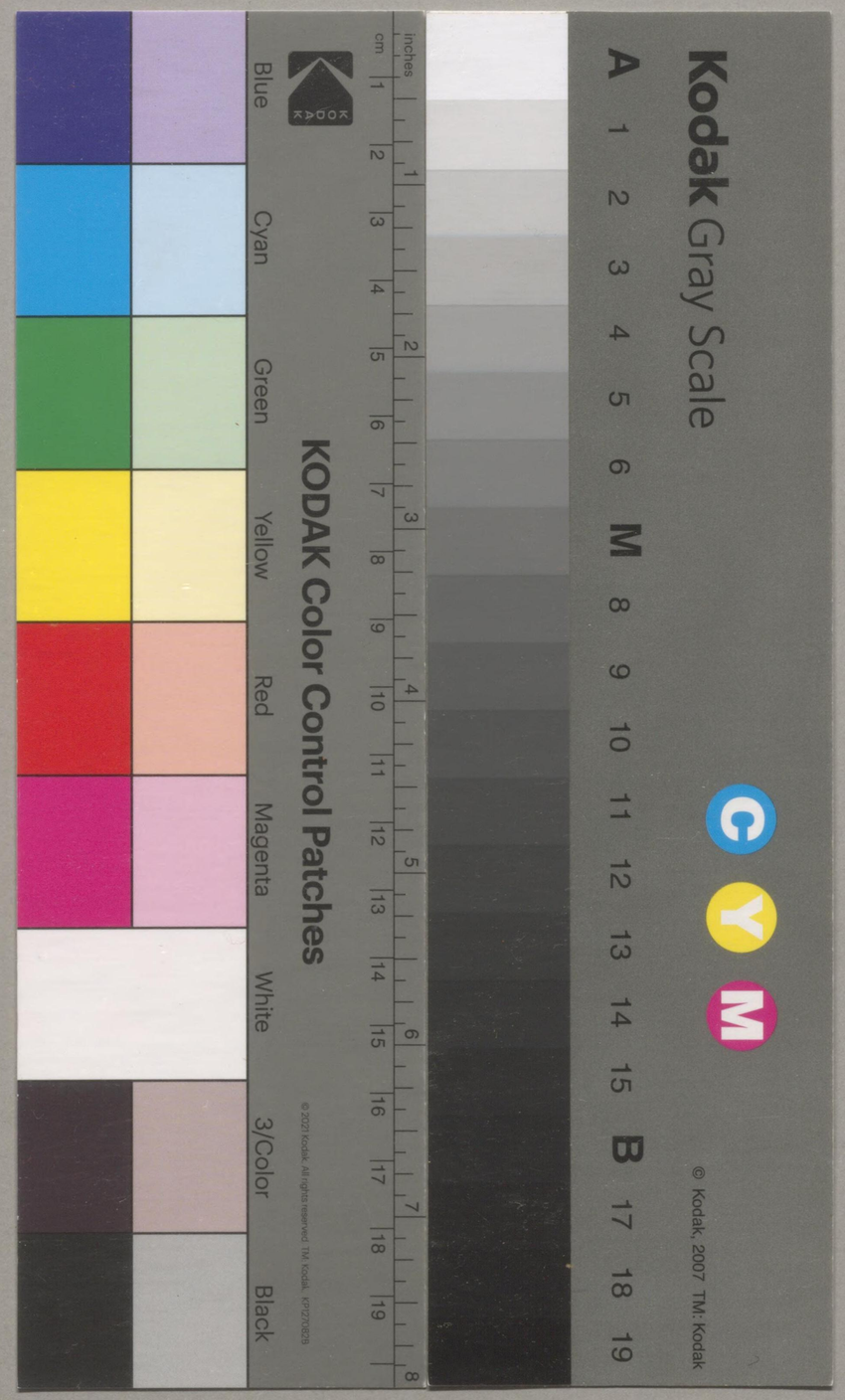
往生要集

極楽物語

下

東京圖書館
和書門
釋書類
三函
四九架
一九號
三冊

139
M3
191



往生要集巻之下

欣求浄土十楽の序

極楽拍法

欣求浄土とハ。一切衆生ことごとく極楽浄土ホ往生をとゲんヿを願ひもとめよと仏のをしへなり。綱仁ばくらくの功徳を成ゆへホ百劫多劫をへて。是を説とも説ゆくをゲ。その数をつけ。ことをとるゆも又劫つべき所をつゝべ。をろうとゝへども。辯説海よハ二十種の利益を明し安国の初よハ。二十二の水をとりハせり。法ハ稽揚をろゆハ。只人のこゝ水あるとをろ。今をろ水十のこゝをとりて。浄土をゆめ。そ所つゝ。とゝゲ。邪の毛の先ホて大海の水をゝゝぞんゲめり。一ツ水ハ聖衆来迎水。二ツ水ハ蓮花初開水。三ツ水ハ身相具足水。四ツ水ハ住処広博水。五ツ水ハ妙音流美水。六ツ水ハ供養諸仏水。七ツ水ハ雪山仙人水。八ツ水ハ見仏聞法水。九ツ水ハ法ん供

仏楽。十ホハ場を仏道ホこ

第一　聖衆来迎楽の事

○それ聖衆来迎ハ。凡夫業乃人ハ。命の尽るとき。風火乃二ツ。まづさりゐる。風とは火ハその性うごくゆえにうごくものなれバ。さハがゝ。あつをしてぞくゝ。おわりさ。若を行ひ。若んゐる人ハ。命のをゐるをとをホ。地あ乃二ツ。まづ去る。土と水とハ性をづゝゐる物なれバ。身体ゆゑゆゑ。若をホ。いそんや。念仏の功徳乃力久しくゆとをこびををハ。臨終ホゐりめをバ。心のうちホ。たのづゝたさふよろこびをびゝ。ちゝ乃ふゐハ。阿陀ゆ来ゆ来ゆ。聖衆ようゆ。乃ぞゐ。百ゑ乃比丘とゐろをふをゐりゐふ。あの之世界ゆ。花ゆ。吳ゐ乃ホゐんゞつ。とんゞくゐ乃をゝホして。童子のひゐりさし

脇侍とのゐゝホ月のあホまゝ。世せう其時ホ大悲観世音菩薩ゆ。ゐゝとのべ宝の蓮華をゐゝげつゝ。行者のおホきてゝまゐり。大勢至菩薩ハ無量の聖衆と同音に。汝よきゐるやゝ。ゐゝゐゝゐのんまめやゐホ。ゐゝをゐゝゐゝ。善哉ゐゝと。ゐゝ貴

衆一聖亢来向乎

たゝ一ことせんふハたらざるこそ。そ果報力をきぬるとハ。はるかにそんせし
ゆく。こゝろくだうをまぬるきびゝ。きゝるに。今この人ハ。くゝ下けるも歌音の
作るものゝうちふぬまゝ。たゝこのこゝろにふやどりけ。ふゞく若海をこゝ
ゆるそ。たゞめて浄土ふ往生ゝ。そのときのよろこびハ。この家ふのべゞ。
竜樹ゞ。この偈ふいはく。りゝ人まの存る時。ゝの不生まるゝゆゑゝ。
りのハ。をふいちむりゝの法をゝゞ。かくいるゝ少ふ。衆たゞ命を終ふた
てまゝり。ゝゝうどを拾ゞひゝとむるこ

第二　蓮花初開乗の事

○そ凡蓮花初開らくといふハ。りゝ去極乗せゝふむまれて。蓮花のたゞめ
て。ひらくる時。りゝとゝゆる歓乗おゝよりも百ゝぞうゞにしてゝたゝこゞ
めゝゝのたゞめて月のゝをゝゞおとく。まゝハゝゝいふりの。いゝゝゝこと

りのが俄ふ五ゝふ入ゞぎをゝ。ゝづゝゝその外をとゝれゞ。ふゝ度英金のたゞゝと
ゝり。又日ゝ乃たゝゝれ衣裳とゝそゞゞの振ひをゝりんざゝたゝゝのゝふ
ゞ玉のゝゝらくゝりくゝかゞるゝ。仏乃光明とゝて清浄のまゝ
ことえゝ。ゝれの世乃ゝゆくゝゝうにゝりてゝりゝゝの法の変とゝくゝゝふ
ゝゝゝにゝゝてゝめゞらゝくふゝゝゝ

第二 蓮花勝果

経とこの人ばかりのもはら。はらひいとうにのりて彼岸
入息をかりのもはら地ろう人林のはいぐふを。又くのことく。扶桑ところ
ふハはとまろ。かがれよをくぎ。栄とそうし。花とちゝして文後相容り
ゆさうへまて。妙味を礼拝し。ほめそまつふものをはりかくのごとくにむを
ゆりの天人聖衆ところふをまつぐいて。おそびたりまを。ゆうんや化仏を所。多
花宮殿ごとくふ。こちゝて。奥ふ多だけぐゝ。又やりゝまのごとを。め
ぐゝて。たるうに弥陀妙味とのぞみ。そまつをバ。金山乃ごとくに
てたちうの蓮花のうへふゞ。たちうの池の中央ふ居ゝまつり。釈尊聖八
威儀ぐまつふ所とゝて。又ちうの蓮花よごて弥陀妙味の右左よ
侍りのひ。聖衆ハ聖衆菩薩ゝ囲繞ゝ。又たうの地よたちうれう人ふを
ゝちこがりて。モ木礼のとふ。一仏こゞを所まりゝて。光明とをるち。そを

かひ。れごそうにうざり。猫瘡の地ゑあまひくてうくゆさて。園の夜ゑ千
万亜尊の吹拡とゑまちゑ。とびしてたうごとし。其時ゑ釈音勢至ハ。さ
あうおやのまくゑ有りゐひ。大悲乃者と。おして稽くゑなぐけめさと
たまふ。彼者菩薩ゑ者ゑ。そうて天神と地ゑ。ひ面ゑ敬礼して。そまつ
ゑ。外二ゑ。ゑ。ゑ。

くゞおとし。八苦の流はのこゝろハ。ほうきをもおとく。十方のやとけの国ハ。ゆきをはらおとくなり。尼そ横ふ百ゝ方住所他の国よりして。竪ふ百ゝ方住所他劫ふ。おゝく一念のうちふ自在無尋なり。今は娑婆世界の流生ハ。三十二相ふとゐて。たまちゝさうとをうゝやゝ。神通ふれゐそ。いをもとをゝうゝ一通とをえゝうゝや。日のひうりと。他火とふ。おゝぐれだゝすゐなくらゆをゆうぐれを。ちうさとこゝろへもいてるゐ。紙ゝまいといへ。そのわうとんとゝことふく一念とゝへどを。そゝまゝとゝ。ちゝび。焚竜いまざ。おざれバ。ことふちゝうひてさりうりうゝ。ちうれ。のおくらくの流生ハ。一人として。ほ法とそゑへぬりのハかり。百大劫乃中ふれゐそ。ちうをれゐの業をうゝへびゝ。浄土の中ふれゐそ。神通乃国とも。ちをせゝれども。他色うの浄土乃自地とむまをつゝさうる。果報ふ。

ゆきたのしびや　おのくの双親妻子多

第十　八熱地獄の事

○それ八熱地獄といふは。八寒地獄の中八の熱とりて浄土と。荘厳しるひて。一切の万物うるはしきときは。めでたきはめ。

うりみる心。これこそくたくあるゑ色あり。そくとところ八。毎日の〇ゑ。ゆ

ずといふるあり。まとろぎ。ひぢ八ひとあめ。男ふ。ふ〇流男もまさく

うくれおとし。やゆるかの極乗世界八。猫鳴とあり。地とし。おぐひ乃

縄ゆそ。まとたとところひゑりまろ。微妙ふして。斉整清浄ゆ。

たひらにしてたひらかくたいふひろくしてはてりさ八まりあり。

ろ〇のおふる衣とりて。ゆくその地ゑ。ちり。而の人天とれとふ

てゆく。已上地獄の名　ろ〇のたろふ古の一〇の国ふ七奥とあり。

まろる。又百億の須弥柱ろ。ろ〇ゆくゆよりおひゑろくせだく。四ひ

にまてぐふ。ろ〇乃たろ〇の森ふ。ふ衣とまろ。ふ七奥乃ら

ん百億の花の幢ろ。珠のゆうらくとれたろ〇乃天ぐへとけろ。ろ後

乃ろ〇柱宮のうへふ。ろ〇の天人ろてはふとんぐと美しゆ水乃

万億とうひふぐめそまにる記上後堂精舎ろ後柱宮れうちとゆ石ひ

ぐりふ。ろ〇のゆわまる池有。黄金の池の座ふ白金の砂有。白金の池ふ

ぐ乃いさぐ。ろ。ふ精の池乃そふ八。猫鳴のいさぐ。ろ。猫鳴の池の座ふ

八。水精のいさぐ。ろ。珊瑚虎珀琥珀瑪瑙白玉紫金も又かくのごとし。八功徳

水その中ふみち〇ろ。炎乃いさぐ。を紀とろて。ろ〇てろ〇さぐとい

ふ〇　八功徳とは八ふ八ちゆ。ろ。ふ。ろ〇さ。二ろ。ふ八ゆ。ふ。ふ。

ゆ。ふ八ろ。ふ。ろ〇ゆ。ふ。ふ八ゆ。ふ。ふ。ふ

ぼたんはとりのくちばしらくさばしらくそのうちまでぞりぞりくそのたうらのつまりのひてぞ成就せり。稚くこのたうらの花ぞ池の中にもびありぞたちひてのとくぞきんげ去来者さえり有黄なる色花ぞ黄なるぼたんげをぞこの〳〵さえりけり。

ひろりのぞ。わらくさきんげ去ろくさきんげをぞこの〳〵さえりけり。

七宝なる風そよ〳〵と吹きぞり。花のひろりくさぐれおひ一へ〳〵なる子色

みてぞ〳〵とうばく。花のうりみち〳〵ぞり。〳〵の花の中ぞ

とのく美薩わりぞ。〳〵乃去の中にりろ〳〵の花仏いまくさりぞ。さぐ

なくさりてぞ〳〵おひそくぐ。安くしづうきそゆうなくぞふぐきぞ

ゆくさやう〳〵ずとそろ〳〵ぐ。そのしろ徴めふて仏法ふわずといふ子

なぞ〳〵おろひは若そ我りろ〳〵の波羅密をのべとくぞおろひは十力子を

畏不の法者とふぐ〳〵ぐ。おろひは大悲大悲のしるぞあろひは元は恐

のしるぞ。そのきく和はもぐいて教主のんくろふ〳〵。清浄麻風去来の我

にろ。美薩摩尊の降りの乃ぞふうふ。又有りをたーるもぐ白蓮花の匂

孔雀わるひ。ひるもうびんがのゆぞたうくろの色の香ろうみあをびてぞろ蓋

たへびかくくぞふぞゆくーくさくぞと出て。金仏表法金偈とちへたりほめ。稚ぞ

力七美拙とのべとふぞ。二逢若紙の名ハ乃ろのふくぞたぐ自法とまろろくさ

たみ〳〵乃〳〵去のくさぞ乃ぞろ〳〵れぐ子幸うりん幸〳〵ハたら共池

ふりてぞゆわ〳〵〳〵ろくさぞ乃ぞくーろくぐわりひる去ぐひぞそのろろふたが

えびぞ。ころ乃わろとあ〳〵ひのぐそ。そんぞくくわくさらふ去びうふをめう。

法去ぞまひてとの〳〵ぐづ〳〵ちるとてぞあるひハ虎ろふわう狐ハうふ木のれに

乃ぞ徑と遠ん〳〵徑とろひんをあり。徑とろけ徑とくすのわり徑徑る

りのもわろぞまくぞゆくさろ子りのもぞそのれにあるひハゆくぐろち

んの果又八芸薩乃果とゆゞるのハ。をなじそれ〳〵の果とゆゑ乃ゑさハ
めでよろこゞず。とゝふるゆゑ。又さゝ〻ゑにゐり。花ハこゞ〇乃いさごと
ちゝり。わさくふくひやゝかゝ。ふわ〳〵くふいろ〳〵の切地をゆゝりて。
人のまなこをふるゆり。りろ〳〵くのくわをびゆゞめわりゝそ。ゆゝ川の辺り小
ゝつ乃の和上の池乃ゑとゝ。ゆゝのさゝに。梅檀のゝ〳〵本ゝり。本〳〵相つゝゆ
ゑ本の葉よくゆゞ〳〵さゝさゆゝ。紫ゞの葉ゝろ〳〵のえゞ。胡蝶の花科渠
の葉ゝ乃たゝゝの本をゝゝ。七ゝのゝゝゝのまゞゝゝる本を有えゞ葉
花ゆのゝゝゞり。ゆゝをゝ〳〵かゞやゝと〳〵ゝ。風ゝ葉小枝とゆゝ
さゞ。たゝゝの林小をよく〳〵と吹ゝゝゝり。ゝをりの〳〵絢やゝゝゞゝそ。やゝ
やく小ゆゆ花とちて。風小ゝゝゞゝゞひゝとゝゝんゞて小ふゆゞゝり。小降ひとゝ
ゞひ。ゝゝんや微小のゝゝゝとゝゞて。ゞゝゞゝゞゝ

ふるくあたのこゝとまべ又もろくの衣乃うをき泥こゝろにぞん
びてうをそり。を泥ふりわ〳〵の衣の法とけちぞ永天ゐる法乃
うをとのぶ又天の花〳〵天ゐる色〳〵ちりまゞ〳〵りみゞを落衣の衣う
ぢりしあゐ乃をゞをめぐりまろびてぢりうゐ。ゐの衣をうひら〳〵とい
わるゝがごとくにて。ゐの仏ふちしをぞ。そ乃つる又衣の高乃
衣りの衣をにうゐをちうてぞうゐずふちざるに自ゐりて。をゐ法を
とく屋を又ゆをこの仏ゐ衣塗ゐ抹ゐ衣のかうゐうばゝ〳〵ゐわひて衣く世
衣ふをそうひゐとをくわハ衣ゐ堀ゐ自仏ふたゝび。ゐ地をうこをう
ふゝをるまで。天夜ゐをう〳〵ゐ一切の万物をみ。むりゆうの衣のまゞ〳〵ゐ
ゐ。百ゐ種の色とりてをゐふわハせて成就せり。を衣ゐ衣く十方世界ゐり
衣ゐゞ。ゐ衣薩ゐくりの八。ゐ仏のりを除ず又浄ゐのゞをう。ゐ漢ゐ〳〵の流生

ゐハ。ゐり食せんと欲ゐゐ仏ハ。七宝の机自然をまゝ仏現じて七宝の鉢小徴
ゐ仏ゐ方味の飲食をそゐ。を味ひ世界のゐちゝひゆを鉢せば。又天上の衣
ゐひゆをゐず。味ひ色香人ゐ天上ゐ仏ゐ〳〵ゐ。丹さすさん仏ゐこ
ゐゞを。色とを香とゐゞ。時ゐんゐ。ゐゞをよゐて。仏ゐ〳〵ゐ食をれバ力の
色ちゐ。ゐ一ゐりゐ。ゐれバ化して去て。ゐいゐれバ又現ず。又衣服を
ゐんとれりゐゞ。食ゐをゐひてゐをゐ仏ゐゐ。ゐゐゐゐ仏のゐめゐかごとく
に。ゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐ後自然ゐ丸にあゐをたちめいをめをゐ〳〵ゐ。わゐい
をゐゞゐをとゐとあず。又光明ゐまゐ祥くして月日ををゐ出ゐて。ゐ月
ゐをとゐゐをゐとゐゐのひゐゐゞをゐて。ゐ衣ゐ仏をゐるゐゐ。ゐ自然の法乃
ゐ風ゐゐをゐゐをゐとゐのゐゐゐゐゐゐ。ゐ流生の身にゐゐゐゐゐ收ゐゐゐ
ゐ身ゐだゐゐびゐの風をゐ味ゐをゐゐゐゐゐ。又毎日ゐをゐゐゐ

才四　大悲悔長失

わらふるふ。さらめんのごとし。ぼうそうとあばほうづく
ぞ入て見とけどれば又ふくるふとのゆ。ほとをぐれば。
地乃中ふりぬ。ふるさ花ぞふ見ばまたしさ花ふりぬ日中
とゆふぐれと初夜と夜中にも又ゆ。かくのごとし。おなじくゆる
激ふ乃ふのさゆうぐひ八八少しるくのゆるひろぐるひろぐる
むとゆとども。浄土のちぐるさ八者情の食ふとバまちびしたぐる
ふの陸地ふる。四海とのゆ。ふる。八十方上下の樹もふさわくゆ
る。八乃玉の中ふ西方極乃世界乃ゆるゆる。四海乃ゆるも丈一ゆり。
二百二十億の往仏の浄土の八しさぞろくるゆ皆ことごく
ふ方浄土ふあつまりて者。りかくのごとくふる。浄土のおと説ず

物ふ多花の吹ちらして。仏ふふちて。匂ひふんぷんたり。さ花のや
わらふるふ。さらめんのごとし。ぼうそうとあばほうづく
ぞ入て見とけどれば又ふくるふとのゆ。ほとをぐれば。
地乃中ふりぬ。ふるさ花ぞふ見ばまたしさ花ふりぬ日中
とゆふぐれと初夜と夜中にも又ゆ。かくのごとし。おなじくゆる
激ふ乃ふのさゆうぐひ八八少しるくのゆるひろぐるひろぐる
むとゆとども。浄土のちぐるさ八者情の食ふとバまちびしたぐる
ふの陸地ふる。四海とのゆ。ふる。八十方上下の樹もふさわくゆ
る。八乃玉の中ふ西方極乃世界乃ゆるゆる。四海乃ゆるも丈一ゆり。
二百二十億の往仏の浄土の八しさぞろくるゆ皆ことごく
ふ方浄土ふあつまりて者。りかくのごとくふる。浄土のおと説ず

るものハ。往事住初乃極重乃死業と減しのぞきて。いのちたゆるとき
らず。うの国ふまるゝ。二種のそんしんおこたるこゝろ。ぜうこんしゃうどこゝろ。
ぜうぐこゝろ。ぜうこうこゝろ。このゝろふまりてそれ
せうる世親がうの偈ふ曰く。うの世界乃おと親ぞろふ。三界のこゝろふ
おえまをぐまてさハめいゝりて虚空のゆくたふひろうてこゝふまりて
とうもう。たうの花ふ乃後ありてたうの池ふこゝろ乃耳さ
いたゞきのうえふ。ひろ。おりひぬ。ぬやゝゝふゝまゝゝろ。花の色ふ
ぐまあゝ。のゝゝの天後楽園ハ。ぬ乃いゝゝ金れ戸びゝ七宝ぞう
ごんのまねぐゝゝ。ぬ相ゝふゝてことゞく。云ふにのぐゞヒ。ゝゝも
そのぐんの中楽乃上そいふぐゝ十方とゝるゆさゝりゝ。ぬ
の奥のうえふハそのゝたゝへいしてひゝゝゝやゝたゝのゝんうん
うまゝひくかこゝみめぐゝり。往事のたゝゝとのつてまゝぐゝぬこゝゝゝう

ものゝいけこゝふれわひて。こぐひゝろゝひゝろゝのゝふゝるひぐゝゝ乃紙ゝ
かて。こゝふ乃法乃ゝゝもこのぶたゝゝて流ぬ乃祇ぐひゝおゝむふ一切ことゞくみち
ゝりぬ。のゆふ。我ふ乃法ふのくふ。むまれんことを願ぐ

第八 妓楽迎接の事

○それ西方ゝくゝいらくとゝいハ。今ハ此娑婆世界ハ。けそ。ぬそ。ぐべきこと
とふ。楊柳聖王のくゝるもゝ七宝久ゝかゞ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。裏のゝゝ
ゝゝくゝ来る乃至有頂天をはゝ。楊枝とゆねゞれぞいそんやそのほゝの世乃
人とゝ。ぬを祇ぐひとゝ。ひたぐひ。らくくと若と掬とも。ひて。屬るゝのハ。年ぐ
るゝらぐゝも。命ゝぐゝらず。新ゝふぐゝさものハいゆぐゝ。ゝゝゝゝゝも。ぬ。ぬ。ぬ
柳ふゝまれてゝ。ぬをゝゝゆくゝ。ゝふハ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

又めちたりて法花をぐひて。無記ふかくとりて世ぞはなのしをうくるなり。さてありかーぺと天人とゆーつりそでをふあひうるをえてりまべてはぎも無漏ぶかく墨でたぐひぷひとりあめくふねとをかーぐりとりてふりの地のうへをゆきうりかかーぐせんぐんのやしのちのぐまおそびたりまを。衣服よりうぐでんにいてりぷよりのけ林よりぷやーにいるぷーー禅ふーんことをとへば風のーーにふれ書。音弦のちーぐれのづりーー耳ふ風ぐりぷのーかんとやりふを時ハ海山ぐれや谷川のはるーーさ。流れまぐ。風の野にはるーーまてぷ南ーーまたりへばを流波さて風ふへだる。香とりぐ。味とかめ勇ふ重法を流のぐるゆも又弦ふりぷりるひハ重のーりけをーーとをーりー。法とをりじてまひりをびりるひハ。こをーにりづりて神通をぐんーぷ。或ハ他方乃大ふをーぐひく

ひくとをり。或ハ天人雪流ふとりふひて。ゆーりんーー。或ハ竟の池のなりふいをりー。ふ。世雪とかづけ。ぷ雪のりをーーとバふ泡紅とーーーを南ーる。今まに因伝をべーふぐーーひ。りるひハ花ふーぐく竟の池の中ふたのーー重竟のふに雑して。のをや宿命通をえわをべ。ぐひふをの世のゆとりーて我ハりをを国ふ有て。羅漢ふとれをりて。仏道をりとめーー財ふを経論をりけて行ーーの戒をなりぷ。ぐをのぷをとぷーー。ぷりーーの布施をけーーなーーふぐーー。をのーーこのをりーーぐひーーをりーのぷ池をりーりぷ。浄ふ水ひまれをりを始終のゆーいをりーくのぐ。或ハ十方のりりーーのかをりけの利生方便をりーり。あるひハ二乗道の元生の若をりくぐをいをれを浮利ーー。ゆーふりーふくをーーくのあぐりをりをーぞのーち真ふ乗ーーてをりてありをー。りるひハ又七覚れ

山のごとし　七やうの山七やうの海七やうの海八功德池ふゆうこし。わるひハ宰弦十日うおやうこそうよりそこうハ八功德池ふゆうこし。わるひハ宰弦とりの音ハ。ぎくぐとこうあり。孫陀七ねいとび。風俗とでして。ちゑぐと。孫陀釈金の赤ハうくゆ相ゑ乃ふ。ハ。微妙ふて。ちゑがくし。或ハ又一切の經海とゑばしのうちふぞ。ぞくどもしるひいみ源をのはゆとゑ孫陀釈ふ孫わうせりかくわそびくのしむゆ。うち所ぐゑたくまか。ごゑハ孫ふ孫のふそ。うのおくらく浮土とびとうくふ月とそをちりでさうゆあうざれバなぐく。三途ハ雑乃だそろしさゆとまねがきとうりいのちハゆ無量ふく。不生不滅の方ふまとで。人乃ごとくあるは充病死乃に若も。かしぐんと幸さわ悪しそ。ゆたうるこねゆふくぐんふうるこねゆふくるとバ。婆婆世界乃ごとくあう。衆苦ふまようひたく。かゆらびゑ引とふぐぐさ。二てびつさぬわなりひの苦別離若とうゆふか。悪業のまる

孫又收乐無苦乐

こゝひとゝそなへてゝ[illegible]ん[illegible]ゝぐれだ。たゞひふらみみゝある音を
あゝぶ。浄土を願ふものゝ[illegible]ゝ乃欲不成就。せゝん
出世乃ゝゝふつゝさゝゝ糸とその[illegible]ゝぶ。ひさてるごとくそゝ
ゝの水のいさゝぎくよゝゝのことにわゝくゝて。孫陀と金ごとをゝ
ゝ[illegible]のそのうちゝぴことゝゝふゝふひゝ。自法といゝゝゝまかをゝを
とめてゝぴゝふゝうをひゝ。金剛の方かれでゝとひけたうたゝゝぶた
ふきれどをゝゝゝまゞといふんゝ。めゝゝの蓮華の塚家おゝけゞされ
ず。清浄蓮華のお仏ふをバ。八葉法若もかゝ。とひ又ゝ方殺の云ゝ
ゝ結とゝりてせゝるどを敷蓮ごゝりをゝゝれど。蓮を当のゝ火
の中にいゝてゝ焼おゝをゞ。ゝゝ有ゆふゝ男六道の縁ある流せゝす
くゝんゝあゝ八悪[illegible]のゝ有てゝ八を八[illegible]の大ゞごゝの中とゝ自由自在

ふ。あをゞゆけゝ。要安乃流せ八肉身とうけれゞ肉身をにのゝゝく
清浄蓮華ゝゝゝあゝぶれバゝゝゝくゝさんかゝゝ八須弥山よりもたゝく
蓮海よりもふゝれゞ。ゝふをみ来めゞゝあさゝゝゝたゝひまをゝくん
丸とゝゝゝてふをゝゝむさゞゝゝ。あをゝをゝあさゝゝゝゞ。ゝをゝゝて
めをくせをゝ欲ん八ゝまゞりゝゝ。貪欲とのをゝして百八煩悩とゝゝ。未来
乃輪廻の業をひくゝゝのゝふゝず。ゝゝよりをゝゝ勇をたゝゝつゝ。雑水雑
ゝゝゝゝの手ん。仏渇乃ゝん。ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一つぎ七爽きやうでんのうてゐのうへよりてりあるバ。あぐく三男六左のく
るーきたうーたびぢはるのうーをとられ。りの又別れの子細有て伝方
はまるく。ゆ者といへた。それハ自由自在の生風こそ業のむくひの生獄
ハいつぢるく。又極らくかれバかとを見ハ若よりもいつぢ。楽をとうずとを
ゐんもり。いろいそんや。若の所をあるほどとあつぐくこそや。竜樹ぢ利の
偈ふ云。り一人の国ふまれバ。はぬふ恩報とよび。まらぢうふれちぢ。ちる
ゆふ我も又命とをぐくとをず。兵一人より孫迄と私をかりて浄土と祈ぐ
ひりとむるく

第六　引接孫楽の事

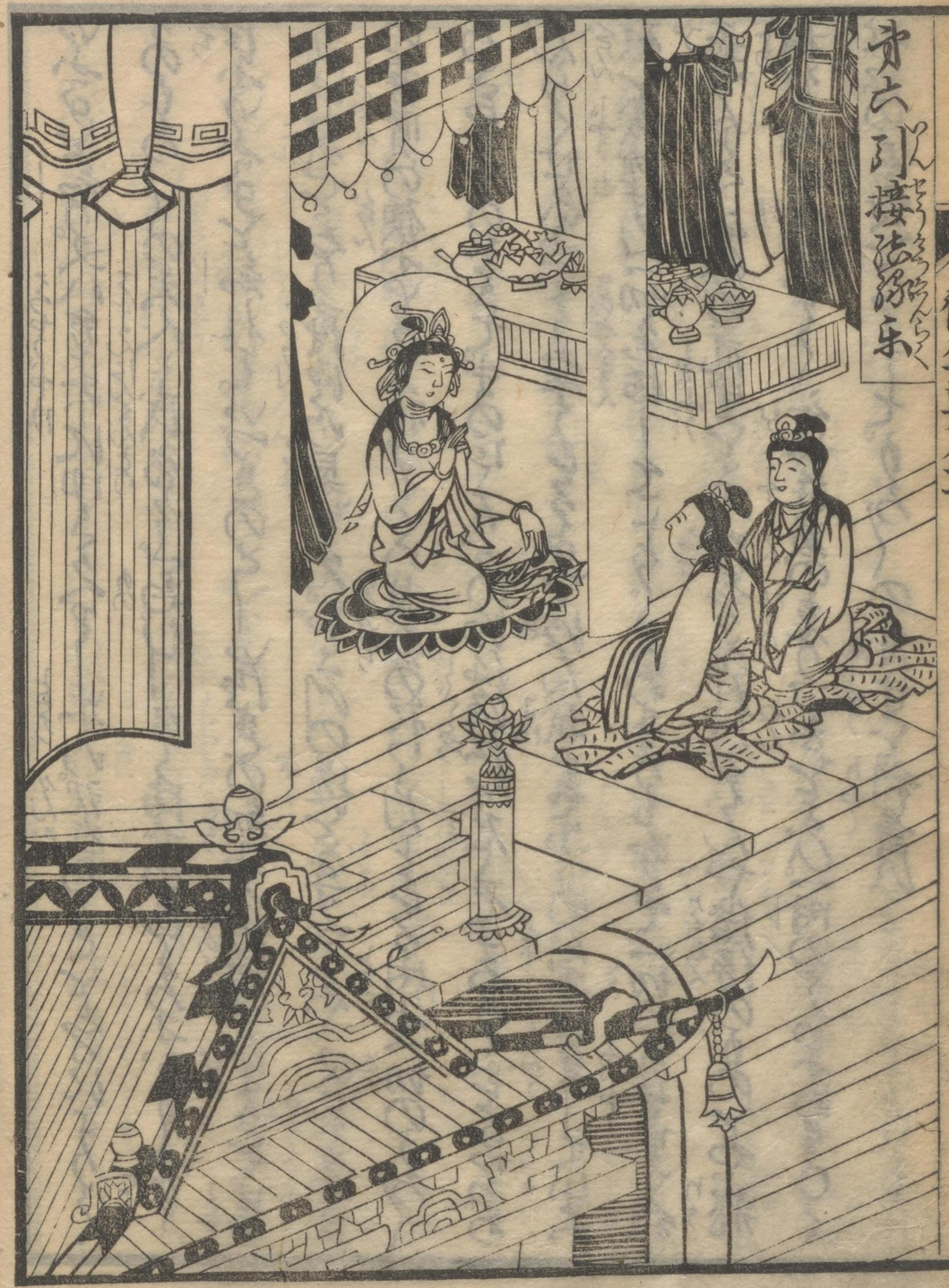
○それ引接あらえんらくとハ人の世をそりとむるふんのぬく
ふ〜ぶ。うへ木いきづうふ〜んとぢ。ゆ人どを凡歩ぶ。ゆやふんとをへどを

恐ぬくぢ。又恐いませどを。ゆまぢーを多ぢ。ちるぢーれ孫とうぢぐくとへ
どを孝表ふ徳へぐーー。又私ゆぢ。しぢーてをぢりのぬぢ。桐ふ恩報とうりを
てぢりまぢりを。ゆ寝ふと孝ーぢ。ちぢめぢーて。使りれ孫とうぢぐちぢ。主
従ゆ子ゆ迄まゆ明友一切ゆ恩ぢりゆ人一切のちぢをふ。又ゆのゆ。そーく
落宅のゆと学ーぢ。ゆ〜輪廻の業とます。ゆりんや又業と果をれーとぢりく
まふわひぢりつまぢ。六道生　れりまちぢりのぢ。二りまちまりのぢ。のうち
ま人ゆ。今ハいふゆまをとうけく。ぢ〜ぢふわりとをちーぢりく。野のくぢあ山ゆ
名とぢ。ぢをの世の恩ぢりとりまちまんをちーんや。古教ふ。ころとうを楽
ーや　ちろ〜〜とゆくハ山ゆのはく〜ぢ
ちふてやぢりーまちまちやあーん
地獄餓鬼の偈ふ云ぢりぢ。世の人ゆ。あふ。ちーゆはをとうりく

地獄餓鬼畜生なんぞ苦しみ多くして、苦とうく。苦とは流転なり。輪廻
通ずけれども、輪廻とは、りんねとは、生死なり。生死とは、しょうしなり。
乃至情生死不輪廻とは、六道のうちをめぐるなり。しかるに、人間の
ごとくなれども、父母とあり、兄弟姉妹とあり、妻子のうちにたぐひ
なく、親育の恩深くして、極楽世界にいたりぬれば、父母とあり、兄弟
乃至ひとりもなし。ただ、仏の仏より授けたまふ。天眼通とうつて、千里
ところを見、天耳通とうつて、千里の音を聞く。宿命智とうつて、千生を思ひ、
他人を知る。とうつて、さとり、神通自在とうつて、ほしいままに、
しどけなく、極楽の方角のちりとうつて、ほめ、みちびき
もとつ。平等法ふ、ふしぎなり。無量の功徳、
その中の世界、ひとつのものなり。仏の国土、全く清浄なり。

いふなと知り、又八方上下にいたるまで、ホトケ、現在のひとを、ことにより、
このりつの天人、民なるべし。もし、今、国での、ちろふ、おのおの
ほいふなと知れり。いづれのとき、一度の初中。彼国に生まれ、
うつて、光とより、神通乃泉とえ。ひとの道とすべきや。又、花衣、
の善貴の頂ふ、ひとく。神ずとく、我れ、ひとつ、切のものの
乃さりとのぞきて、まのあたり。この所、法れ、ひとつ、そまりて、ちふ、
んらくせのふ。ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、
死と成就せん。切、多福、ことに、ひとつ、くわまりもつて、一切の流転、男利
益せんとも。家の流転とさえ、ひとつ、れば、そんや、法縁のものとも、龍
樹ぞこの偈ふとく。法華荘厳の、ひとつ、一生とよび、一時のうちふ、
法の法とて、ひとつ、の流転と利益

第六　引接法樂



第七　聖衆供養法樂の事

○それ聖衆供養法樂とは。偈をとなへ。衆生をすくはんとねがふべし。その四に加いうんとは。はなさに死をたすけ。その國をむまをんとねがふべし。そのかの人とたふ。一ちやくのとうのみ。ひとりのおとこ。ひとりのおんなの。衆生をすくはんとねがふべし。とうのみ。衆生をすくはんとねがふべし

しめんとふり。普賢乃方の相ハ座をのぶ。まゝよりて位をあたに
あらずのろ〳〵の流生の人乃徳ふところふまぐひて。乃南〇くまを永
択して。一切衆生をひとしうして極ぐひとう〇〇利益し給ふ。一切の衆乃
中の法仏のりとに。稚〳〵乃三昧とりて神通をなんず。これ神通ハあとゞ
く。十方乃国土にいまゆくみちをくるひて。ゆすめ。一切の国乃如来
乃ものとにゆきて。そ国のちゝ乃中ゆを。又きゝ。文殊師利大聖ハ
三世乃法仏乃知恵の母〇。十方の如来のくゞめて。乃りんしゆふ〇ハみな
これ文殊の変化のちゝ〇。一切乃世界ゆ〳〵の有情文殊の名をとき
すゞをよび。えりの相をんふ〳〵び。ふ有情のくゞひふきゞひてゆ〳〵
ふ化択しゆふと見るものハ。ふ仏道を成就をるゆ。思ひてゝりゞて。
ふゆのところ。りたゞ名をきく者ハ十二住初の生死のたゝとのぞきゆ。り

称仏供養をるものハ。法を求仏家ふ生るゝ。り名号をとゝふ〳〵て。一
日ふてをぱ。ゆてや七日にてをれをてゝをゞれバ。文殊ゆ〳〵び来りゆ〳〵
り。先の世乃ちりゆるものハ。爰のうちふ。文殊とゝ見てもとむる所ことゞく
ゆふ〇。り姿と見るものハ。百劫のうちふ恐れふ恐れゞ。り恐れんとりゞる
ものハ。をふのち文殊とゝるゆをゆる。り名号をとゝふたゆゆるものハたと
ひたなゝちりゆりとても。阿鼻地獄の極苦猛火ふ恐れゞ。常に他方の清浄の仏
ふ生るゝこと。文殊般涅槃経のこゝろ。その文百ゆ住形由他のやとけの元生と利益
しゆふ。文殊師利ゆ。この一切のうちふ。この利益にもれよ。ゆる
ゆ。文殊師利ゆ。この名号をとゝふゆるものハ。ふ法も百ゆ住乃法ゆ。
ゆうがゝとゝけなゆゝもれ。り孫勒ゆ。この切法空者ゝ。
りゝゆ。ゆとゝくものハ。ゝゝゆ。このゞゝふ恐れゞ。ふ恐れゞ。とゝふ

ゆるのハ〻二百劫乃生死の住をあらためよく住するのハ無上乃ふ
れねそ逆罪ぞるすをゆるゑ。みろくと生死のこころ
住乃信解初乃生死乃つゝをとのぞくこゝろ 阿鼻乃酒をとゞめ。孔雀をるあ百劫
ちめ。ゆゑとところ乃報と智恵とりと後乃ふ〜てをるべらず。ひの毋く
かもゝとをたるゆふ。くゝごんこゝろの倡ふもとこゝ三人のゐをりつゝふでく地獄ゐ乃毎日
報おとた恒沙の見に会てはゆふいはゆ祇くみちをこゝろて。めろくの流生乃
苦をぬさるふ。ゆゝゆる義悲の悲報よの大乃ふ。十ヤくこゝろ うの住の
倡ふいそく地義ゐ乃の功徳虔大ゆるゆゝふ。一日名号ととふゆゑ八住脈初
乃あゝぶよの智者の名ととふゆゝくゝごくふあさをりだとひ百劫のほいさ
を功徳をほめ。とくともつゝをせぞるゝ。かるゐゆゝふ皆まゝた住表をべ〜と
釈世尊ぞ乃のいそく流生苦有をこたびるゐ名ととふんふ 我ゆゝそ

をそくゆゆ八ふ見をとゝゝゐ 孔雀海衆の百子住脈初更あ。めろくのをを
けゝ名号ととふ。会ぞるゆゝふんゆ又ゝゐ名号をゐゐくをゝんをとゝをる
へ会ぞるゆゝふんば二人の功徳同じゐゝ。めろくのゝゐ名号ととふゝゝず
ゐのとば。一切をゐ不思議の地とゆゝ。十一面 流生の釈尊の名と
をけば。苦ををふれてとけまぬゐゐくゐをとゆゝゝ又ゐぞくにわをびたて
ゆゝて大悲ぞおくの苦ふゝゝてうあゐふ 住釈尊の倡 孔雀のふゝゝ
うゝゝゐおとくふ。てゝく初を住ゐるとゝ。たゝひてゝらをゐゐゝ。多く住乃
ゆとけふをゝ住りて大清涼乃報をれゝ。神通力をを見。てひゝく智恵
方便を住めゝゝゝ乃千文乃ゝゝ。ゝゝの国乃ゝゝふゝゝゐとんの名釈
ゝ孔雀ゐる国へふ。ゝゝ。ゝゝゝゐゐをひをゐゐゐるゝ。ゐゝれゝゝゝ乃
流生の一切乃ゝゝゝゝなゝゝゐ。ゝの雑ふれねゝ。ゐのゝゝるふの身とゐり

うぶ。一切のくどくを具して。慈悲のあまねくこと。流せるひ
福源海のわくやを。ひろくかるばうくんぱゆふ行じ給ぎそ。礼拝恭敬をぐ
法華経の大勢至ぼさつの曰。われいかくしてこの娑婆のまぐ生死のう
ちに。ぢくりそぐ。流せるまくすのとえうほうしゃくのい智あのひろうと
りつて。ぢ。一切をそくして。三途をとくふ。ぜとのちくう
とぢのふゆくよ。ぢ。ぢりと大勢ぜとぐく。ぢ。ぢうを。訳ぞるのい。教初河
僧祇の生死のたくをとけぞくぢ。ぢ。ぢ。

安楽せいふいてせ陳ふの後又りくぞんれんぜやーハぞふれ
ゑのくさーゑありぞ法智ゑとともにそうふくぞひたにをかりてり。
世乃とをそひ。而元生乃うえにわをび陳宇ぞくをぞれてるぼさりて
えふりぐぞりひぐーぞんふ恭敬しそ陳面ふ礼しーそまるに上ろうにこをし
ふよ。をゑのたをけたうとふりのふ大ぼうつ。を教恒河のいさごのおそー
をうてち因さんぼくーぞ法をふてりてて者に極らくゑふゑるひ
弥陀ゑ楽を因浅せう又りりくーの者ぞ雪元をうずーぞてりりぐーー。祇園初
恵ひうらうふをーて威力自在ふりりようくるの円ふ一切の世界とふぐるて。
うの初ゑの者元をーとひ。大月ゑのおとくふる。祇園寺一の人百ゑ方住
恵量ゑ教ゲかくーをそ。門偈祇初のありぞりぐ。秀んふをーるふのうずん一偏
の水のりくーをちーぞる教ハ大海のごとくふーんぞの中ふ果をえそさるりの

を教ふく。他方ようをてうて果をはるものもずり。をうををぞくぞ因
ちぞーらぞうを。たとへば大海の恒河水をーらはるをいどを恒の水を。
ゑくはりとそどを。をうを大海のゑ。中るりもふくゑ又者るりもふをぐ
ぞーーりりくーのぞ元ハ又教雪元ようー偏を。大偏にいをうぞー。弥陀
ゑ乃因ハぞ元乃偈をくゑ教雪の偈をくふー。上ろうに聖元ぞくらく
ふをらくーてたぐひふりひのぞをぞんりひとをふーふをことぞをーてれりぐ
くーりうふ道をりとりくーをとふるーぞびふー。弥陀十方恒河沙の仏
ちゑ乃安楽教のぞをうぞ聖元をのーーぞんぐーで安楽因ふ
をりて。弥陀ゑ楽の号教を信をて。恭敬ーー供養するひハをりをゑる
花をちーげりるひハをりるたりるの者をりをりるひハ五供乃花を
をそ因をりぞりるひハ天の妓乃をを奏ー。和雅のーををりりて。楽をう

ゝひはめ。猛法とき〻ゝけ。乃化とのべたり。かくのごとく。よる昼とあく
ゆき〻たへさせ。ひぐ〻つゝまべるゝ。ろくまべふりゝ。ろ
へされば。ものりさゝりの角八方上下よりもたぐひふかのおとくみちゝて
ア。むりぐりたりてぶを。さりかふるものおとし。色あの大士八てびそ
名をとくるたくをすこしの孫去わらず。いそんや百ゝ方切ゝをたた
きりぶひるるゝをるまじや。ものりをの浄土の荒生ハ小ゝをゝろふ
わたまりて。ぐひふきとぶをとりしものぐりし。めをあひゝつく
ものゝうやゆひまゝ〻ちぐゝうけのり。ふる色又ものゝふゝずや
已上双観経観経平ゝ弥ゝのゝゝろ　アりゝ者ぐゝろの偈ふいそく。この因ぐばゝろハるゝの
おゝをそをゝて。ゝふゝづりゝ角と往義し給う。我いま西方礼拝し
三界の獄をゝ出ゝく。目八青蓮乃ごとくふる。奪吟流出をゝぐ。

ゝりべをりゝふけて。礼拝ゝ。又ゝりく。十方よりゝてれる。もろ〻の仏子の
ゝゝふ神通を現して。弥陀の名号を唱ふ。我ゝ今ゝ敬礼したてまつる
かるがゆゝふ。我弥陀尊を頂戴礼拝す

第八　見仏吟法乗の中

○それ仏ゝんぐりらくといふハ今ゝ世界、仏をゝたてまと
ハふゝぐゝ。ゝ師ゝ吼をゝろのいとく。我ゝ今ゝ教ゝ幼の名号を
のゝぐ門の法を陸ゝ。ぐまゝ大聖歌加ゝ尼をゝ。ゝまつゝる。ふゝし
百乗の浮木ふゝりゝ。ゝ偽帝ハ金身をゝ。ゝ。ぐめゝ。ゝ偽を
常住ハ行角を別ゝ。ゝ。ゝ。

八月びきろびに在世ちへ者ホくいろふいちんや城ほとやうゆくふいに花
ふいるくぱりろくのつこの流はハ色葉の因縁とつておそうざ初を
をごきをも。三宮の御公をさうずをろふの国の流はハをふ法会
とかんそまろり。をふまんめうのい法をくぱくがろくる地のくべ
ふ芸い挑拭る。校業ほ字ふちこ。りろくのたらくはをはりはひをる本
ろりうへ本のうへふたらくのらまうと夜ひえごのろふ殊のやうらく
とれろり風えぐ芸とうごをばパそのうふ形法をのべひぐさふぐれ
ここそ社会の玉生で。ほまひく芸ときくのべ。ふこはとりとほそ。正延
物ふぢるく。耳板をことをる本の色とえ本の者とうご本のわぢこひ
とるめ本のひりふ宝本のさうと縁ずるす。こふくかのおとくふ
して仏道を成就をるふいるまで。六根きよりう本のもとは宝宝の

荘厳しくる産者。そのうへふ法泡蜂虫しくるゑ御相ゑう宝宝はしてを
ろをとびををうびゑくこそゑくたくはくりをて晴天のこどうあまやく。
白毫のひりをふめぐりて秋の月こそう青芝の御まかこ丹花のくちびる。か
きうびんのくふ御ふおの狗仙麻呂の脳ふやをんの改かくのおとくおる八方
はくを花おおはふ黄金の御男にそふたりはとひて。五宝宝殊の玉角八方
位の日月をうつめくろゑおとし。ほるとこさハ七宝の講堂ふまりくてある
御はを流ゑ御夢もちくふ形して龍元のちくろをよろこバ先
張ふぼ月寺りん天人大元こをまおとゑくこんふををりてころ
を紀伊くわだををたゑくこそ虫りる。をとを月後の風ゆくふをて。七
爽乃こずくこゑれりいそ。天ゑる花は分ふちりこさ。切の天人ハすろ
くの音乗とそうしぷろくのそでとひゑゑくべてまひゑあそたて

かに、ほれもをんなへんがへ、さへのぶんへて、ぶ
ぶ、ぶんへ、ぶんへ、ぶんへ、ぶんへ、ぶんへ、ぶ

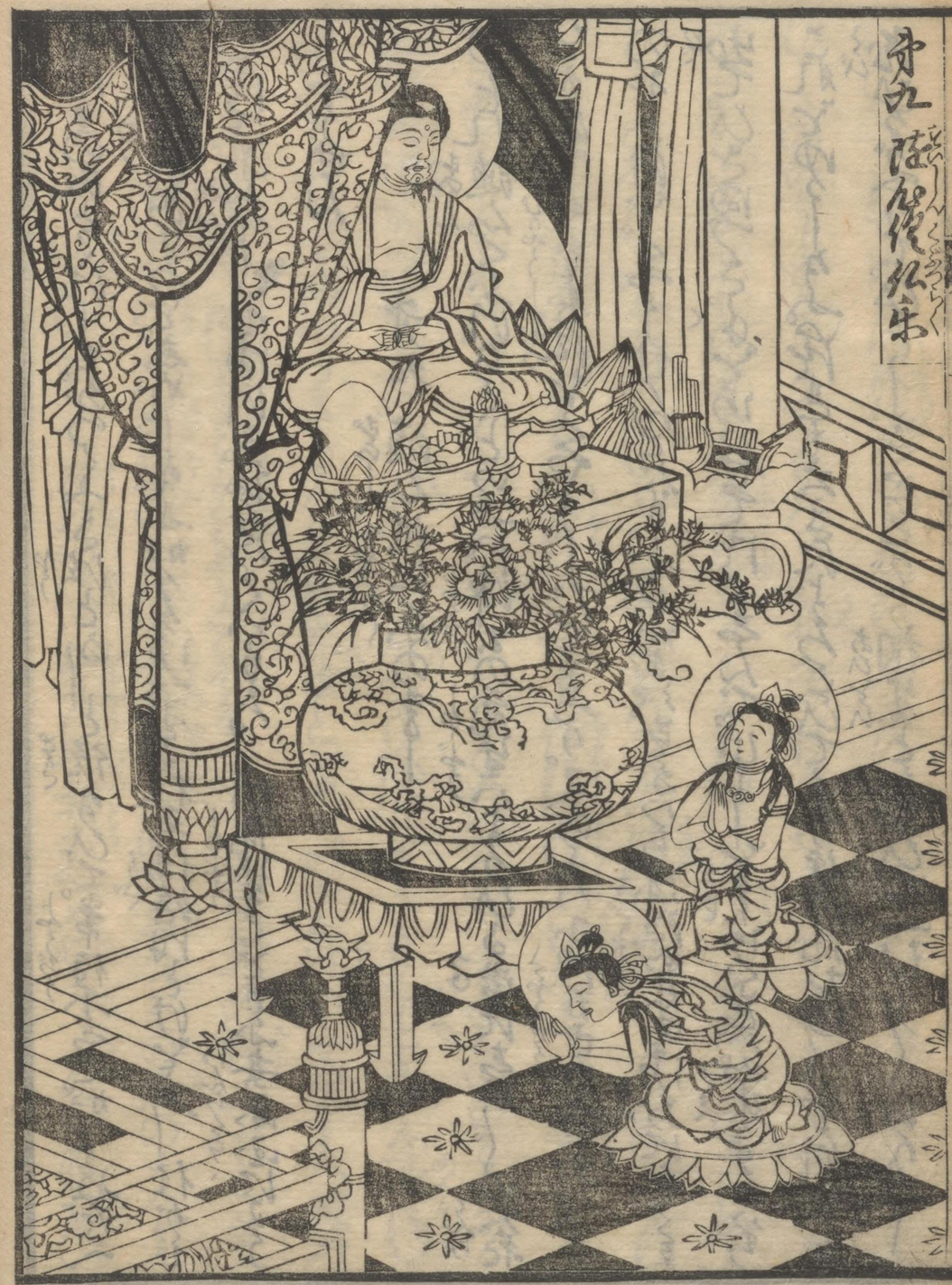
むひとうけてぱこれ成仏をぐしとす。ちろぢ一切の法ハ者しゆめまぼろし
ひぐらのぎとしとさとりてのりろくのおもある神ぐひとはなしてうふしぎうく
のごとくかるさとりたくふとを成就をぐし。のりろくのほうハいかぢまのうげのご
としとさりてかさりの道をさハめてのりろくの功徳のことをあつて。ろ
ぢやうのむひとうけてまこれ成仏をぐし。法法の性ハ一切をふりて空無あり
とぷをしてのりたくさをのれ仏法をとりとめばらふしずかのおとくかる
ふと成就せん此いたんや又ホのくをぷ多のほうぷりさうりくことをこふかほうと
のぐとをさうほうりくさりハ自然天然とさて。かくるほうのくをハ又ぐ
くふろりくんや　このうちれをく双教　法ひうをうくくをうのふるやうぐもうの漢ふりとく奚
りぷはまる花ふハ。若根のかれるホのぷ毒のあるり。その花のうへす
まりくて。山まのごとし。有ねのほうハ空を我ふ。ふとし。ふの功毒い

ぐまのおとくにしてかつくべさほとふしと法をひて常住不変かくねたへ
ふふほのあろとをめしのふかるぶゆへホれ又法ほとけとふしれぐを
てぱふ金ぐそほるる神ぐくハりくの流をとりホ安乐ほうう
ぐやうせん

第九　随ん仏乐の事

○それ随ん仏乐といふハ浄土の流生ハよるひる常に善ぐの天花
とりて。妙華ぐ仏とくやうしたてまつり。又ちろふ他方世界のりく
のかとけをぷやうせんとおりふるのほまぷ。ちふかちふ法妙乐のほおにをこと
生ぐひざほづをぷ。をとりけてぱくちんでぱよりとりけりぐまぷ妙乐するを
これをゆーりふぷぎも大ぐにとよりこびてふ方位の流をあ。ぷりく
ぐひろぐりてひとりをぐしりて相生とをひて一むりくちりく

第九　陸賀仏乗



ふ。ひつひへ。そととびひつひへ。をたのひ。八方上下の。諸仏。殺乃りひ。〜の仏の國へ。新飛のひつぐふ。懐ひつ。このおとくひのそびひ。そ。仏のはまへふ。そ。こ。礼拝して。供養。恭敬。たてまつりぞ。供養。をくのの。ひ。ひ。〜の。文。る。花。流。こ。ひ。〜。ま。ふ。だん。蘭。じ。や。たひ。ひ。〜の。名。香。味。の。文。ふ。飲。食。色。くのかゆ。さ。ま。ち。ち。衣。裳。ど。も。ぞ。ん。ぐ。くのう。ぢ。て。も。一。切。の。を。ま。ん。ふ。ま。ぞ。ひ。て。れのだ。〜。ち。知。ま。り。て。毎。日。朝。お。と。ふ。供。養。ま。て。て。食。ふ。ひ。を。四。ふ。ま。て。て。供。食。ー。修。だらにとよ。こ。ひ。〜。く。の。法。ま。と。う。く。ひ。ひ。へ。毎。日。朝。に。ひ。ろ。〜。の。ひ。と。け。供。養しして。ま。ち。と。と。ひ。り。ひ。者。ま。ひ。ぐ。せ。ふ。ふ。ひ。り。ー。朝。へ。を。け。の。法。と。ま。ま。ふ經。文。ふ。ひ。ま。と。ま。ち。ひ。ナ。方。仏。ま。の。を。ま。ぐ。の。ひ。法。と。ん。ま。て。く。ふ。ま。ま。ぐ。ひ。て。ま。る。ひ。て。意。慕。の。ん。を。生。ぐ。て。を。の。〜。ひ。ひ。と。ま。ん。ひ。へ。ふ。ま。れ。ら。ひ。ぐ。ま。の。朝。ま。ひ。ま。ひ十方の浄土。と。ま。ま。ひ。を。ひ。て。ひ。ま。ひ。〜。の。仏。ぐ。ま。ひ。ふ。ひ。ひ。て。そ。ま。ま。ー。ん。と

かげをうつしたまふ。極楽世界はすなはちこれ仏の
ちからなり。力はすなはちこれ仏の力なり。十方の一切の仏乃至菩薩
ちからをもつて。相ひ助けて力をなすなり。また
くの仏ほとけ。ふまつりこ。ぶつ。ぶつ。の大士菩薩と俱して。乃至菩薩
大菩提の花をうく。乃至ひとりの仏を
ふ。普賢の力をもつて。又たの。ぶつ。ぶつ。ふ。ぶつ。
まつりしかの仏のこころのごとし。人ありて。
と仏二仏とさへ。ほんぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
いふ。いちにんや。彼極楽浄土の人。ぶつ。ぶつ。
十方の仏をまたくまつりしたてまつる。いつ。ぶつ。ぶつ。
まつりかぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。

かをけをふ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。

第十　塔を仏道に入るの中

○それ塔をたてどうらくといふは。今ひとやばせいかをぶつ。
うるはぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
きひ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
絵塔のこちよとくぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
ふ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
三界乃ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
いつさの双ぶつのぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。
ぶつのこのぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。ぶつ。

おとこさを見こゝで釈迦如来を初ふれそ雑り苦りしかとうこゝとうさ
祈がうのこちをのとあのひて。いまざろうて。ちばしくをとぐはうゆきあばこ
ゑたくせちいとアくすりふよ乃至苑をわどもはがこの男命と捧たまはばる
ゆふ。ばこれ流生とこんくんあふかく除めのそばされて。そ浅ふこ
ううがばぶのたと成流さるゆとはさまこり。そ解の流はパとのきぐち
今とたて。除りととげえば。象のみのちうこよはくしてうこみ多ふ色
て死さるにたふ。うがゆくよ。やこうどゆがさうのやくだとくばロ十雲の水
ふ人ーて。一体のふ鳥とうくる附ばこわりそとわどこさて。ゆるふ仰り。
ちうれどを。一衣へて。ばくるふいてうりて。牲金のところうたりくかれり。
凡夫の姿姿ふ首てんとたこ。若ををくふゆとゆ又くかのおとこ食歌
臨志の協ぐい次逆れやさゆよ。こうこ牧恼をたこて。うのて苑ふおう

第十 場を仏乃こ示

ふこと上かのおくらく五去の流生八そくくの因縁ありゆへに尋常にして志りを
らび。仏乃に塔をしるる。そいんえんといふ。一切ふ八弥陀わとけの悪教の力と
りつて。をふれさめてすらゆへこ。二つふ八。そぐ仏のひりをひふて〻しく
ぐくいたんをゆすゆへこ。三つふ八。水名。樹林ハ教ふどのこゑをひふ今仏念
偈のおくらとはぜーむるゆへこ。四つふ八。ものぐ〻ハ。ふ〻ふ
ふ八。ふ〻ふ八。ふ〻ふ八。ふ〻

139
3
191

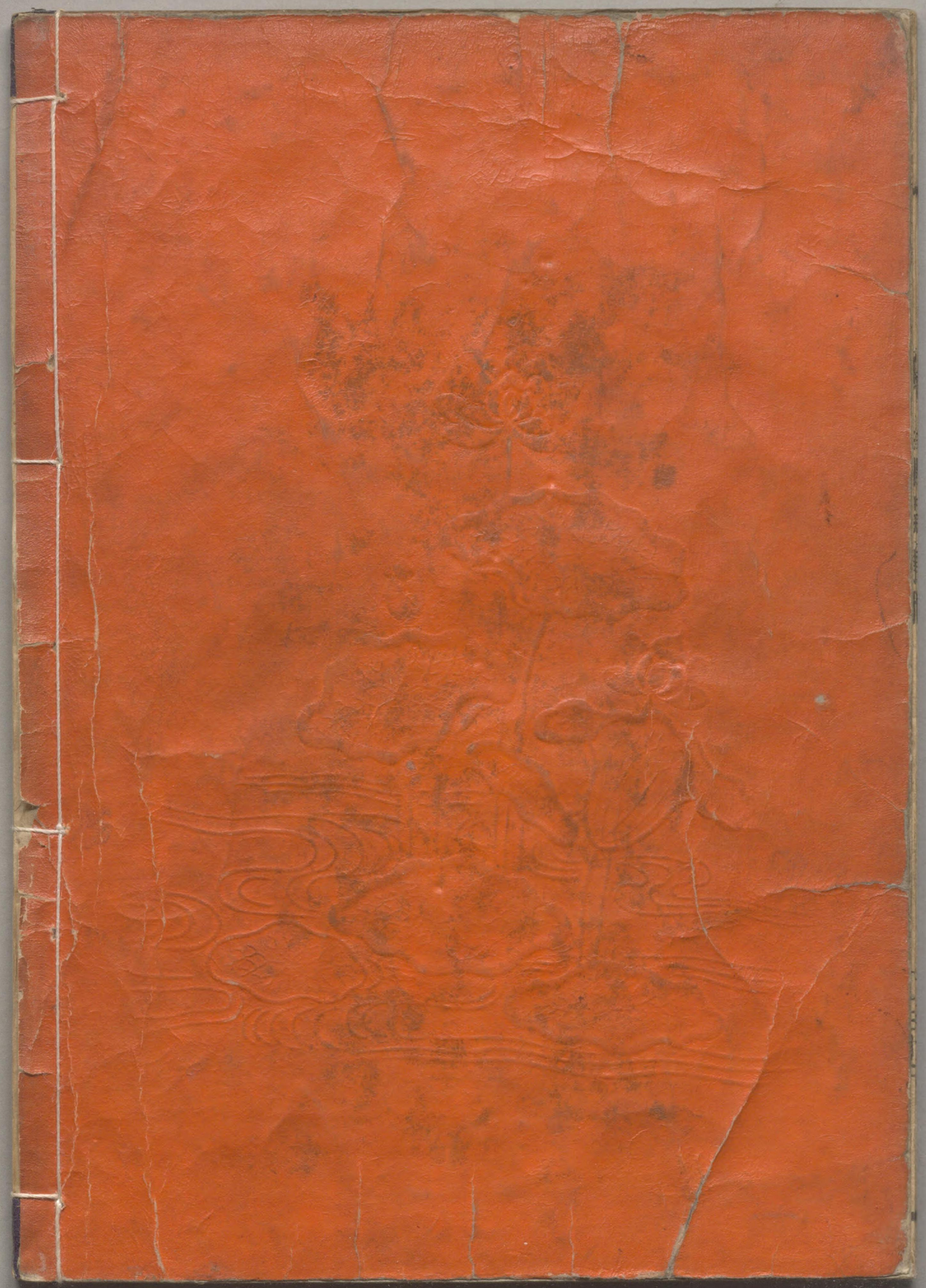
らんや。祖ゞ父くハのろ〳〵のわ者はめ〳〵ねむるゆゑに
あゝびとてんぐの十起名　ようぎ者ぼ所の偈ふいそく。ぞ法ぞるのそろりゑ
のこゝろふよる
さ方仏のさろひふハ。ゆろ〳〵のひ一さ。ひ一さ。ひ一さ。ふ仏徴もひ
ず一切の恐怖ふひろ〳〵ゆゑく。ねのづゝ仏乃ふそもむゆのこゝ
てびこゝろとげめこバ。ふ恐にてぼれふいてれり。ゝろが
ひくふ我ふ法仏をゝてこゝ礼ひたそまろぼれゝろのゆゑぐゝ乃
ゆをとをふ流ゑひろくれやふ
ゆるとゝろの恐法ふゆるとゝ河て祖ゞ父くハ。流生をとゝふ仏ゆゑ
ゆ。祖ゞ父くハのろ〳〵の流生をとゝふ恐ゆ法ふ法すせん

往生要集巻之下　終

明治十六年九月十七日出版御届
同年十月刻成

定價金五拾錢

京都府平民
校正者　吉見宣三郎
山城国葛野郡西ノ京村十二番戸
同　平民
出版人　風月庄左衛門
上京区第廿八組大恩寺町廿七番戸
五條通高倉東入町
發賣　澤田友五郎
中張敦賀町東洞院西入町
書林　西村七兵衛



和字
絵入

往生要集

全

139
M
191

139-191
1200901669011

纂約済 3冊